シカ捕獲候補地の指標となるササ食痕

ニホンジカの増加に伴う農林業被害や生態系への悪影響を防止するためには、防護柵の設置や忌避物質の利用などによる被害の防除だけでなく、生息密度を抑制するためのシカの捕獲が必要です。シカとの遭遇機会が少ない状況では、いつ、どこで捕獲をするのが効率的でしょうか。多雪地では、周囲より雪が少なく過ごしやすい場所にシカが集まる傾向があります。また冬季には常緑のササの葉がシカにとって重要な餌になることが知られています。実際に、南向きで傾斜の緩い斜面に隠れ場所となるスギ林があると、その周囲や、近くの雪に埋もれることのない沢岸には、数メートル四方から数十メートル四方にわたって、ササの葉が一面にちぎられていることがあります。よく探すと、幅約１センチメートルほどの歯形が残る葉が見つかることもあります。これらの多くは、冬季にシカがササの葉を食べた痕跡です。食痕がシカによるものかどうかは、DNA検査薬であるニホンジカ・カモシカ識別キットを用いて確実に判定することができます。このようにシカが冬季に生息した痕跡のある場所には、翌年以降にも再び生息する可能性が大きく、捕獲を行う候補地となると考えられます。

シカの歯型が残るササの食痕

ご関心のある方は、森林総合研究所東北支所（TEL：019-641-2150）へお問合せ下さい。